中日両言語の語順について

Concerning the Word Order of the Chinese and Japanese Languages

高橋弥守彦
TAKAHASHI Yasuhiko

内容提要

假如汉日两种语言的结构仅仅是「SPO」和「SOP」的话，那么只要明白单词或短语的意思，汉日互译起来就不至于很难。但是，从连谓句、兼语句这些深受中国文化影响的句式来看，汉日两种语言的特色则非常显著，其翻译难度也较大。例如。“我每天早上八点骑车去学校。”［毎朝 8 時に自転車で学校に行く。］中的下划线部分，很多学生常常译为［自転車に乗って学校へ行く］。这样的译文虽然不能算错，但是从中日两国的“对称文化”和“非对称文化”这种文化层面来审视的话，其差异还是显而易见的。

本文主要着重于汉日两种语言的语序问题。如上例所示，要想从文化层面解释清楚这一现象并非易事。如何将具有中国特色的汉语翻译为具有日本特色的日语，则是本文的宗旨所在。

キーワード：

目次：

1. はじめに
2. 主語の位置移動で訳す中国語表現
3. 連体修飾語を伴う主語で訳す中国語表現
4. 文構造を変える中国語表現
5. おわりに

1. はじめに

どの言語も、文は原則として単語の意味と文の構造から成り立っている。周知のように、中国語の基本構造は「SPO」文型であり、日本語は「SOP」文型[1)]である。これを基本とする語順の文だけであれば、以下の中文日訳に見られるように、語順の対応関係が認められるので、分からない単語を調べればいいだけで、翻訳はさほど難しくない。

---

1) 一般に中日両言語の基本構造は、「SVO」文型と「SOV」文型といわれている。しかし、中国語の「V」の箇所に形容詞“她一个晚上全白了头发。”［彼女は一晩で髪が真っ白になった。］を用いる文もある。これによって、筆者は「V」（動詞）ではなく、「P」（述語：Predicate）を用いている。

（1）如今儿子五岁了。（『人民』88－7－101）
いまでは息子は五歳になっている。（同上）

（2）推开门，不幸的女人疑惑地望着她。（『人民』96－11－85）
ドアが開いて、不幸な女が訝しげに彼女を眺めた（※見つめた）。（同上）

上掲の 2 例は、中日両言語の基本構造によって作られているので、基本的には対応している。そのため、さほど翻訳が難しいわけではない。しかし、以下の文のように、中日両国の文化「対の文化」と「非対の文化」[2)]に影響された文となると、かなり訳しにくくなる。

（3）安安像做梦一样，也到村里开了介绍信，和那女人到乡里很快领回了结婚证。（『人民』89－7－99）
夢心地の安安は（※も）、村で自分の紹介状を作ってもらうと、その女といっしょに郷役場に（※へ）行って早速結婚証をもらって帰ってきた。（同上）

例（3）の連用連語“到村里开了介绍信”は、［村へ行って自分の紹介状を作ってもらうと］ではなく、［村で自分の紹介状を作ってもらうと］と訳され、“到乡里很快领回了结婚证”は［郷役場に行って早速結婚証をもらって帰ってきた］と訳されている。対の文化の影響を受ける前者の連用連語“到村里＋开了介绍信”は、非対の文化の影響により［村で＋自分の紹介状を＋作ってもらうと］と訳されている。これは中日両言語の特色を出した見事なまでの表現だが、後者の連用連語“到乡里很快领回了结婚证”は、［郷役場に行って］より［郷役場へ行って］と訳す方がいいだろう。その前の訳に［その女といっしょに］の［に］があるので、重複を嫌う日本語[3)]では「へ」格の［郷役場へ行って］と訳すと、リズムが良くなる。

例（3）は、それぞれ中日両国の文化的影響「対の文化」と「非対の文化」を受けた原文と訳文とであるが、どちらも文化が言語に影響を与えた優れた原文と訳文といえる。これとは別に、以下の文は、原文と訳文の語順が対応していない実例である。なぜ訳文は原文の語順通りに訳さなかったのであろうか。

（4）他又在空中抓了几粒，给沁沁。（『人民』89－3－102）
空中でタネを数粒つかむと、彼はシンシンにあげた。（同上）

（5）安安在屋里看见了，出来锁门就走。（『人民』89－7－98）
部屋の中でそれを見た安安は、出てくると戸口に錠を下ろして（※［て］をとる）出かけた。（同上、89－7－99）

（6）妈再抱他，他再下来。搬个小凳坐在门口。（『人民』89－7－98）
また寝かせると、また起きて、戸口に腰掛けを運んでそこにすわった。（同上、89－7－99）

---

2) 中日両国には文化の違いがある。中国は古来偶数を重んじ、日本は奇数を重んじている。これを筆者は「対の文化」と「非対の文化」と呼んでいる。

3) 中国語は四字一句、日本語は俳句の 575 が基本なので、中国語は重複を好む傾向“默而不语”にあるが、日本語は嫌う傾向［黙ったまま］にある。

例（4）は、原文“他又在空中抓了几粒，给沁沁”と対応するように、訳文を［彼は空中でタネを数粒つかむと、シンシンにあげた］と表現せず、主語の位置を換え、なぜ［空中でタネを数粒つかむと、彼はシンシンにあげた］と訳したのであろうか。例（5）も原文“安安在屋里看见了”と対応するように、訳文を［安安は部屋の中でそれを見た］と表現せず、なぜ原文の構造を変え、主語の前に連体修飾語を伴う訳［部屋の中でそれを見た安安は］にしたのであろうか。例（6）の下線部は対の文化の影響を受けた連用連語“搬个小凳坐在门口”を用いているが、訳文［戸口に腰掛けを運んでそこにすわった］は、原文に対応した訳［腰掛けを運んで戸口にすわった］ではない。なぜこのように訳したのであろうか。本稿では実例を分析検討することにより、その理由を明らかにする。

中日両言語の文構造関係は対応する関係を含め、多種多様だが、本稿では原文の語順を替え、主語の位置移動による日本語訳（例 4）、連体修飾語を伴う主語による日本語訳（例 5）、中国語の文構造を変える日本語訳（例 6）の 3 点に絞って論を進める。

2. 主語の位置移動で訳す中国語表現

中文日訳では、よく日本語の主語が減訳される。これは日本語が老若男女によって、表現が異なる役柄言葉[4)]なので、主語を減訳しても、一般に誰が発している言葉なのかをとり違えないからである。また、中国語は 2 音節で 1 単語が多く、日本語は多音節で 1 単語が多いので、減訳できる所は、なるべく減訳する傾向にある。これも主語減訳の一因である。

これとは別に、以下の文に見られるように、日本語では主語の減訳ではなく、文や分文（文節）における主語の位置移動により訳す文もある。

2.1. 1 文や 1 分文中における主語の位置移動

主語の位置移動は、1 文や 1 分文中でもおこる。日本語は名詞の格が発達しているので、文中の位置にかかわらず、主語であることが分かる言語だからである。

（7）我为我双亲有这样的爱情而骄傲。（『人民』88－11－90）
両親のこんな愛情を、私は誇らしいと思った。（同上）

（8）他却怔怔地，一直目送着她的身影消失。（『人民』96－11－85）
消えて行く彼女の後ろ姿を目で追いながら、彼は呆然とその場に立ちつくした。（同上、96－11－84）

---

4) 中国語では、男性も女性も同じように表現するが、日本語では基本的に表現が異なる。たとえば、以下のような中日両言語である。金水敏などは、このような日本語を役割語と名付けている。

妈妈说：“苗苗，这钱给妈妈，帮你买件衣衫。”（『人民』88－2－96）
「苗苗、このお金、ママにちょうだい。お洋服買ってあげるから」とママ。（同上）
爸爸说：“苗苗，这钱给爸爸，帮你买最好看最好看的小人书。”（同上）
「苗苗、このお金でパパが、すごくすてきな絵本を買ってやろう」とパパ。（同上）

例（7）は原文も訳文も一つの文である。ただ、訳文［両親のこんな愛情を、私は誇らしいと思った］は、強調するところに句点（、）を用い翻訳に工夫を凝らしてある。これを原文に対応させて、［私は両親のこんな愛情を誇らしいと思った］と訳しても間違いではないが、強調するところを文頭に用い、また句点を用いて強調を明確にしてある訳文に比べると、やや単調である。例（8）では主語“他”を文頭に用いているが、訳文は 2 分文に分け、後の分文の頭に用いている。これは［彼は呆然とその場に立ちつくし、消えて行く彼女の後ろ姿を目で追っていた］と訳しても間違いではないが、主語［彼は］は結論の前に用いるほうが、文意が分かりやすい。日本語は理由［消えて行く彼女の後ろ姿を目で追いながら］・結論［呆然とその場に立ちつくした］のほうが一般的であり、長さのバランスがよくなる。

2.2. 2 分文中における主語の位置移動

中国語の 2 分文中における主語の位置は、以下の複文に見られるように、一般には文頭に用いられる。その訳文も原文に対応する場合が多く、やはり一般には文頭に用いる。

（9）儿子一瞅着五线谱上的“蝌蚪”，就挥起小拳头。（『人民』88－7－101）
息子は、五線譜のおたまじゃくしを見るたびに、小さなこぶしを振り上げる。（同上）

例 (9) の原文と訳文の主語の位置はどちらも文頭に用いられ、基本的には対応している。二つの連語はどちらも行為であり、前者は理由“一瞅着五线谱上的‘蝌蚪’”、後者は結論“就挥起小拳头”である。しかし、主語の位置移動で訳す日本語の訳文も少なからずある。その場合の主語の位置移動でおこる言語現象は、下記に述べる 3 分文中にも相当数あるが、2 分文中でおこる場合が一番多い。実例を見てみよう。

（10）他又在空中抓了几粒，给沁沁。（『人民』89－3－102）；前出例（7）
空中でタネを数粒つかむと、彼はシンシンにあげた。（同上）

（11）他们要她坚强，要她作好最后的思想准备。（『人民』96－11－85）
心を強くして、最期を覚悟して下さいと医者がいった。（同上、96－11－84）

例（10）は主部が一語“他”で、述部が二つの連語“又在空中抓了几粒”“给沁沁”から作られている。二つの連語は主語の連続した行為である。原文に対応して訳すと、［彼は空中でタネを数粒つかむと、シンシンにあげた］となる。例（11）も主部が一語“他们”で、述部が二つの連語“要她坚强”“要她作好最后的思想准备”から作られている。二つの連語はどちらも主語の発話である。どちらの分文も客語に対する主語の発話なので、並列的に訳され、主語の位置が例（10）の語順と異なっている。原文に対応して訳すと、［医者が心を強くして、最期を覚悟して下さいと言った］となる。

上掲の 2 例は、いずれも主部（主語）がひとつで、述部が二つの連語で作られている。二つの連語はいずれも主語の行為や発話である。主語の行為や発話が例（9）のように、理由と結論とになっていれば、両者の関係性を明らかにするために、主語を文頭に訳す方が優れているだろう。しかし、両者が行為（例 10）や発話の順序（11）などであれば、上掲 2 例の訳文に見られるように、主語の位置移動をすると、リズムがいっそう良くなる。以上の点

から、例（10）（11）の訳文のように、主語の位置をどこにするかは、リズムの問題であり、まとまり性のある述部の意味による、と言える。

2.3. 3分文以上における主語の位置移動

一般的に言えば、3分文以上で作る中国語の複文は、そう多くない。中国語の3分文以上における主語の位置は、以下の複文に見られるように、一般には文頭に用いられる。その訳文も原文に対応する場合が多く、やはり一般には文頭に用いる。

（12）他随手拣了颗酷似花种的小鹅卵石，在沁沁亲他脖子喊着“爸爸好”的喜悦中，极认真地放进盆中，让沁沁亲手培上土，浇了水。（『人民』89－3－100）
彼はその間、花のタネに似た丸く小さな石をひろって、真面目くさって鉢の中に入れた。首にキスをしては、「パパ、いい人」と叫ぶシンシンは、うれしくて仕方がない。そして、土をかけ、水をかけさせてあげた。（同上、89－3－101）

例（12）は意味的に見れば、3分文（“他随手拣了颗酷似花种的小鹅卵石”“在沁沁亲他脖子喊着“爸爸好”的喜悦中，极认真地放进盆中”“让沁沁亲手培上土，浇了水”）である。原文も訳文も主語は文頭に用いられている。しかし、主語の位置が入れ替わる訳文もある。

（13）他听到这些传闻，心里很难受，却不知该怎么办。（『人民』96－11－85）
こんな陰口を耳にして彼は苦しんだが、さりとてどうしたらいいか分からなかった。（同上、96－11－84）

上掲の訳文の主語は文頭ではなく、2番目の分文の前に用いられている。訳文の主語の前後は、外からの情報と内からの自省とに分けられる。

3. 連体修飾語を伴う主語で訳す中国語表現

連体修飾語で訳す中国語は、訳された日本語の構造からみると、文頭・文中・文末・体言止めの4類に分けられる。このうち文頭に用いられる場合が一番多い。そのほかの3類はごくわずかである。それでは、実例を検討してみよう。

3.1. 文頭に用いる連体修飾語

訳文が文頭に用いられる連体修飾語の場合は、原文が二つの分文（文節）で作る複文の場合が多い。なお、本構造の主体は人間であることが多い。

（14）他既孝顺又软弱，依了母亲。（『人民』96－11－85）
親孝行で芯の弱い彼は母の意見に従った。（同上、96－11－84）

例（14）は原文と対応して訳すと、一般的には［彼は親孝行で芯が弱かったので、母の意見に従った］である。それでは、実例中の訳文と原文に対応する訳文とでは、どのような違いがあるのだろうか。どちらも原文の基本的な意味を表現している点では問題ないが、表現効果とリズムが異なる。たとえば、例（14）で見ると、実例中の訳文は主部［親孝行で芯の弱い彼は］と述部［母の意見に従った］との関係が明確であり、連体修飾語により主語を規定しているので、主語の性格が一層はっきりし、文構造が単純［親孝行で芯の弱い彼は＋母の意見に＋従った］なのでリズムもよい。しかも、この訳は非対の文化を反映している。原

文に対応する訳文は、二つの分文［彼は親孝行で芯が弱かったので］と［母の意見に従った］に分かれているので、表現効果がやや曖昧になる。

この訳文は主語［彼は］の移動により、［親孝行で芯が弱かったので、彼は母の意見に従った］とも表現できる。3 通りの訳文はどれも間違いではないが、訳文が用いられる文章の中で、それぞれの表現効果を検討し、当該の文章の中で、どの訳文が一番ふさわしいのかを選択する必要がある。

次に訳文が文頭に用いられる連体修飾語で、原文が三つの分文（文節）で作られている複文を見てみよう。この場合も主体は人である。

（15）安安像做梦一样，也到村里开了介绍信，和那女人到乡里很快领回了结婚证。（『人民』89－7－99）

夢心地の安安は（※も）、村で自分の紹介状を作ってもらうと、その女といっしょに郷役場に行って早速結婚証をもらって帰ってきた。（同上）

例（15）は原文に対応して訳すと、一般には［安安も夢を見ているようであったが、……］と訳せるだろう。例（15）の複文は、3 つの分文から作られているが、状態・理由・結果（結論）に分かれる。たとえば、例（15）は状態［夢心地の安安は（※も）］、理由［村で自分の紹介状を作ってもらうと］、結果［その女といっしょに郷役場に行って早速結婚証をもらって帰ってきた］である

平叙文で主体がヒト以外は場所だけであった。また、平叙文以外は“有”字句が 2 例あった。それぞれ、実例を見てみよう。

（16）这个城市不再有他的身影、她的寄托了。（『人民』96－11－85）

彼がいなくなったこの町に、もはや自分の寄る辺はない。（同上）

（17）有人祝贺吕星发了财。（『人民』94－10－97）

財を成した呂星を、ある人が祝ってくれた。（同上）

連体修飾語を文頭に用いる例（14）から（17）までの主語は、いずれも「は」格か「が」格の主語として訳され、非対の文化の影響を受け、構造が単純化している。たとえば、例（14）は「親孝行で芯の弱い彼は＋母親の意見に＋従った」と分析できる。例（16）は連体修飾語の主語に場所［この町に］がなっている場合であり、例（17）は“有”字句であり、訳文は多くの平叙文と同じように、主語はヒト［人］である。

3.2. 文中に用いる連体修飾語

訳文が文中に用いられる連体修飾語の場合は、わずか 1 例しかなかった。実例を見てみよう。

（18）醒来，不见了妈，屋里空荡荡的，他把嘴唇咬出了血。（『人民』89－7－98）

目をさますと、母がいなくなっていた。がらんとした部屋で、安安は唇をかんだ。血がにじんだ。（同上、89－7－99）

例（18）の訳文は連体修飾語を用いる状況語が文頭に来て、状況語を強調している。下線部の構造は原文と異なるが、［安安は唇をかんだ。血がにじんだ］の訳は臨場感が出ている。

3.3. 文末に用いる連体修飾語（原文文末を訳文の連体修飾語で訳す）

訳文が文末に用いられる連体修飾語の場合も、実例は少なく、今回の調査では、わずか 2 例だけであった。実例を見てみよう。

（19）她自己呢？依然是单身一人。28 岁了，车间里的姑娘都说她有点儿怪，有点儿冷。（『人民』96－11－85）

だが彼女自身はというと、依然として独身で、もう二十八歳だった。職場の小娘たちは、陰で彼女のことをどこか変わった、冷たい女だと噂した。（同上、96－11－84）

（20）她不顾一切地赶往出事地点。在县医院里，她见到了不省人事的他。（『人民』96－11－85）

彼女は人目も恐れず事故が起こった町にかけつけたが、県病院で彼女を待っていた彼はすでに意識不明だった。（同上、96－11－84）

原文文末の語句を連体修飾語として訳す場合もそう多くはなく、わずか 2 例だけであった。例（19）では“有点儿怪，有点儿冷”であり、例（23）では“他”である。これらはいずれも日本語の構造を単純化し、分かりやすくするためである。原文に対応して訳せば、下線部の例（19）は［職場の小娘たちは陰で彼女がちょっとどこか変わった、冷たいところがあると噂した］、例（20）は［彼女は人事不省の彼を見た］となるだろうが、原文の訳文は連体修飾語で訳すことにより、誰がどうなっている［どこか変わった、冷たい女だ］と［彼女を待っていた彼はすでに意識不明だった］のかを分かりやすくしている。

3.4. 体言止めの連体修飾語

訳文が体言止めの連体修飾語の場合も、実例は少なく、わずか 3 例だけであった。

（21）沁沁的眼睛闪过希望又闪过失望。（『人民』89－3－101）

期待に輝く眼、失望にくれる眼。（同上）

（22）沁沁有了一盆属于自己的花，亲手种的花！（『人民』89－3－100）

自分の花を手にしたシンシン。それも、自分の手で植えた花なのだ。（同上、89－3－101）

体言止めの文はそれぞれ特徴がある。例（21）はリズミ感を出す文［期待に輝く眼、失望にくれる眼］、例（22）は読みやすい文［自分の花を手にしたシンシン］が体言止めである。これら体言止めの訳文は、リズミ感を出す文・読みやすい文に大別でき、一般の文に比べ文意が明確になっている。これらの一般的な訳文は［シンシンの眼は期待に輝き、失望にくれる］［シンシンには自分に属する花（、自分の手で植えた花が）あった］となるであろう。

4. 文構造を変える日本語訳

中国語の文は一般に SPO 文型で作る「一般文型」と連述文や兼語文などの「特殊文型」とに大別できる。一般文型は中国語の基本構造であり、特殊文型は「対の文化」の影響を受けている文である。

一般文型の文は日本語と基本的に対応するので、翻訳がさほど難しくないが、特殊文型の大多数の種類の文は、中国の「対の文化」の影響を受けているので、「非対の文化」の影響を受けている日本語には訳しにくい。まず、一般文型の文から見て行こう。

（23）其实，丑姐儿并不是很丑。（『人民』91－2－96）

事実、みにくい姉さんは決して容貌が悪いわけではない。（同上）

例（23）はやや複雑な SPO 文型で作る否定文“丑姐儿＋并不是＋很丑”［みにくい姉さんは＋決して容貌が悪い＋わけではない］である。一般文型であれば、翻訳も基本的には原文との対応関係が認められる。ただし、一般文型の文であっても、以下の文に見られるように、中日両言語では対応していない文もある。

（24）满足的笑，苍老的笑，豪迈的笑！——风暴淹不住，雷霆盖不住，海浪埋不住！（『人民』93－4－111）

老いた三人の、満足し切った笑い、枯れた笑い、豪邁な笑い！それは暴風にも、雷にも、怒涛にもおさえられはしなかった！（同上）

例（24）の下線部“风暴淹不住，雷霆盖不住，海浪埋不住！”［それは暴風にも、雷にも、怒涛にもおさえられはしなかった！］は、主述文の並列系“风暴＋淹不住，雷霆＋盖不住，海浪＋埋不住！”、訳文は原文の述語にあたる 3 か所をまとめて訳している。見事な訳である。この文は単語レベルでは対応関係になっていないが、分文や文レベルでは対応している。次の使役文や比喩表現も単語レベルや連語レベルでは対応していないが、文レベルでは対応している。

（25）鸽子的变化使他目眩，使他恐慌。（『人民』93－4－111）

鴿子の変化に爺さんはうろたえた。（同上、93－4－110）

（26）无声的雪花，如银如絮，立刻盖住了这对拥抱着的父子。（『人民』97－2－87）

銀のような綿のような雪が音もなく降ってきて、抱き合った親子をたちまち包み込んだ。（同上）

例（25）の下線部“鸽子的变化使他目眩，使他恐慌”［鴿子の変化に爺さんはうろたえた］は、原文は二つの形容詞による使役文だが、訳文は一つの動詞による能動文[5]となっている。これだけ構造が違うにも係わらず、文意としては適訳[6]である。例（26）の下線部の比喩表現“无声的雪花，如银如絮”［銀のような綿のような雪が音もなく降ってきて］もかなり工夫が凝らしてある訳である。“絮”は［柳絮］だが、日本では柳絮をほとんど見かけないので、［綿］として訳してある。見事な訳としか言いようがない。

---

[5] 日本語にはヴォイスの体系があるので、使役文を能動文で訳しても問題ない。

[6] この訳も日本語にはヴォイスの体系があるので、使役文を能動文で訳しても問題ない。また、二つの形容詞もそのまま訳すと長くなるので、いくつかの形容詞や動詞を一つの形容詞や動詞（例 44）で訳すこともある。

以下では、「対の文化」の影響を受けている連述文[7]および介詞を用いる連語を用いてある文の訳文についても検討してみよう。

（27）妈再抱他，他再下来。搬个小凳坐在门口。（『人民』89－7－98）

また寝かせると、また起きて、戸口に腰掛けを運んでそこにすわった。（同上、89－7－99）

上掲実例の下線部は、例（27）の連用連語“搬个小凳坐在门口”の訳が［戸口に腰掛けを運んでそこにすわった］で、語順通りに訳す［腰掛けを運んで戸口にすわった］のほうが分かり易いし短く訳せているので優れているような感じがする。しかし、日本語は［戸口に腰掛けを運んで座った］と訳す方が「～に～を＋動詞［運んで］＋動詞［座った］」の構文に沿っているので分かり易い。

原文が「対の文化」の影響を受ける連述文で書かれた上掲の訳文は、既述のように「非対の文化」の影響を受ける基本的な日本語の構文に従って訳されている。次の介詞を用いる動詞連語も「対の文化」の影響を受けている。

（28）北方的冬天来得早。这天，晚饭后爸爸说到对面楼里去会棋友杀两盘。（『人民』97－2－87）

北国は冬の訪れが早い。父親はこの日も夕食を済ますと、向かいのアパートにすむ将棋仲間と一局指す、と言って出て行った。（同上）

例（28）の下線部“这天，晚饭后爸爸说到对面楼里去会棋友杀两盘”［父親はこの日も夕食を済ますと、向かいのアパートにすむ将棋仲間と一局指す、と言って出て行った］の構造“这天，＋晚饭后＋爸爸＋说＋到对面楼里去＋会棋友＋杀两盘”の“到”は介詞である。“到对面楼里去会棋友杀两盘”は「場所＋二つの行為」であり、二つに分けられる介詞を用いる連語は、対の文化の影響を受けていると言える。

5. おわりに

中国語は SPO 文型、日本語は SOP 文型、これらが中日両言語の基本文型であり、簡単な文型から複雑な文型までの基本となる。中国語は、このほか連述文や兼語文および介詞を用いる動詞連語などのように「対の文化」の影響を受けた文もある。この対の文化の影響を受けた中国語の日本語訳が難しくなる。

中国語が SPO 文型を基本としていれば、日本語に訳すことは、工夫をすれば何とか訳せるであろうが、対の文化を受けている以下の文のような連述文は、そのまま語順通り訳したのでは間違いではないが、日本語としてややぎこちなくなる。

---

[7] 連述文は一般には連動文と呼ばれている。しかし、次の文のように連用連語の一方が形容詞の場合もあるので、筆者は連述文と読んでいる。

她爬楼快极了，像她驾驶公共汽车一样。（『人民』90－4－98）

さすがにバスの運転手だ。階段をかけ上がるのも速い。（同上、90－4－99）

我八点坐校车去学校。（作例）

私は八時に学バスに乗って学校に行く。私は八時に学バスで学校へ行く。（筆者訳）

どうすれば日本語らしくなるのか。上掲の分析に従うのであれば、重複を避ける（ニ格の名詞）や日本語の文構造（八時に学バスで学校へ行く）に従って訳すのがいい。上掲の二つの訳文は前者が中国語の文構造に従って訳し、後者は重複を避け日本語の文構造に従って訳している。中国語の文構造に従って訳すと意味は通じるがリズムがぎこちなくなる。

私たちは「聞く・話す・読む・書く」ができるだけでなく、翻訳は意味が正確で、リズム感のある日本語らしい日本語に訳す必要があるだろう。

参考文献

日本語文献

1. 相原茂・石田知子・戸沼市子（1996）『Why？にこたえるはじめての中国語文法書』同学社
2. 金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
3. 輿水優・島田亜美『中国語分かる文法』大修館書店
4. 鈴木康之（2000）『日本語学の常識』海山文化研究所
5. ＿＿＿＿（2011）『現代日本語の連語論』日本語文法研究会
6. 朱徳熙著・杉村博文・木村英樹訳（1995）『文法講義』白帝社
7. 高橋弥守彦（2006）『実用詳解中国語文法』郁文堂
8. ＿＿＿＿（2017）『中日対照言語学概論―その発想と表現―』日本僑報社
9. ＿＿＿＿（2020）『中日翻译学的基础与构思―从共生到共创』外语教学与研究出版社
10. 松村達夫（1978）『翻訳の論理　英語から日本語へ』玉川大学出版部
11. 丸尾誠（2010）『基礎から発展までよくわかる中国語文法』アスク出版
12. 李臨定著／宮田一郎訳（1993）『中国語文法概論』光生館

中国語文献

1. 丁崇明（2009）《现代汉语语法教程》北京大学出版社
2. 樊平　刘希明　田善继 编（1988）《现代汉语进修教程 语法篇》北京语言学院出版社
3. 房玉清（2008）《实用汉语语法》北京语言大学出版社《实用》
4. 耿二岭（2010）《汉语语法》北京语言大学出版社
5. 李宝贵（2005）《语法精讲与自测》北京大学出版社
6. 梁鸿雁（2004）《HSK 应试语法》北京大学出版社
7. 卢福波（2011）《对外汉语教学实用语法》北京语言大学出版社
8. 陆庆和（2006）《实用对外汉语教　学语法》北京大学出版社
9. 徐昌火（2005）《征服 HSK 汉语语法》北京大学出版社
10. 杨德峰（2004）《汉语的结构和句子研究》教育科学出版社